

平成19年度「修学旅行の実施状況
並びに修学旅行の事前学習・事後学習の
状況について」のアンケート
調査集計結果の分析と考察

《平成19年度研究委員会》

研究委員長	富田 政博（行田市立長野中学校長）
研究委員	後藤 辰夫（日立市立平沢中学校長）
”	長濱 康夫（小山市立絹中学校長）
”	中澤 和則（長野原町立西中学校長）
”	武田 公男（茂原市立西陵中学校長）
運営委員	秋池 功（鴻巣市立鴻巣西中学校長）
”	千葉 秀彦（水戸市立内原中学校長）
”	加藤 茂（佐野市立葛生中学校長）
”	中島 智雄（みなかみ町立水上中学校長）
”	大久保雅従（栄町立栄中学校長）
事務局	久保 行正（財団法人 全国修学旅行研究協会理事）
”	吉野 憲二（ ” ” 部長）

平成19年11月20日

関東地区公立中学校修学旅行委員会
(事務局 財団法人 全国修学旅行研究協会)

調査研究のねらい

修学旅行は、特別活動の内容の学校行事のうち旅行・集団宿泊的行事に位置づけられる。学習指導要領によると特別活動の目標は「望ましい集団生活を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活を築こうとする自主性、実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う」とある。また、「内容」の旅行・集団宿泊的行事には「平素と異なる生活環境にあって、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、集団生活の在り方や公衆道徳などについての望ましい体験を積むことができるような活動を行うこと」とある。

これらの「目標」や「内容」をもとに各中学校ではさまざまな工夫をした修学旅行を実践しているところである。そしてまた、その修学旅行が物見遊山ではなく教育旅行である以上、各教科、道徳、総合的な学習の時間、学級活動と関連を図り、事前及び事後の指導を適切に行なわなければならない。しかしながら、授業時間が削減され、放課後の活動に制約がある中で修学旅行の取り組みに苦勞しているのも現実である。さらに、中央教育審議会では中学校の教育課程の枠組みについて、総合的な学習の時間は各学年において35単位時間（週1コマ相当）程度削減することが必要であると言っている。また、全体で現行週28コマを29コマにすることが必要と言っている。ますます、修学旅行に関わる時数の確保に苦慮するところである。

関東地区公立中学校修学旅行委員会（関修委）では修学旅行の充実のために、昨年度は年々増加している修学旅行での体験学習についての研究を進めた。教育としての修学旅行という観点から、指導や生徒の学習の時数を確保することが難しい状況の中でも、事前・事後の学習は欠くことができないものである。

そこで今年度は、事前学習・事後学習及びその課題についてのアンケートを実施し、関東地区の全体把握を中心にまとめ、各中学校の参考に供するとともに、修学旅行における事前・事後学習の更なる充実を図っていくことをねらいとして研究を進めた。

調査の概要

1. 調査対象

茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県公立中学校

2. 調査の時期

平成19年6月～7月

3. 調査の内容

(1)実施の日数・実施時期・旅行方面・訪問地・宿泊地・体験活動を含めた生徒一人当たりの旅行費用(平均額)

(2)修学旅行での体験学習について

(3)修学旅行の事前学習・事後学習の状況について

調査時期以降の実施校については、予定を含め記入とした。

回答状況

(校・%)

	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	合計
対象校数	234	168	174	423	384	1,383
回答校数	133	168	98	421	378	1,198
有効回答数	133	166	97	421	377	1,194
回答率	56.8	100.0	56.3	99.5	98.4	86.6

群馬県回答校には国立大学附属中学校1校、千葉県回答校には市立養護学校1校を含む。

栃木県の連合実施校は各1校として回答校数に含む。群馬県・千葉県で各1校「実施なし」あり。回答校数には含む。

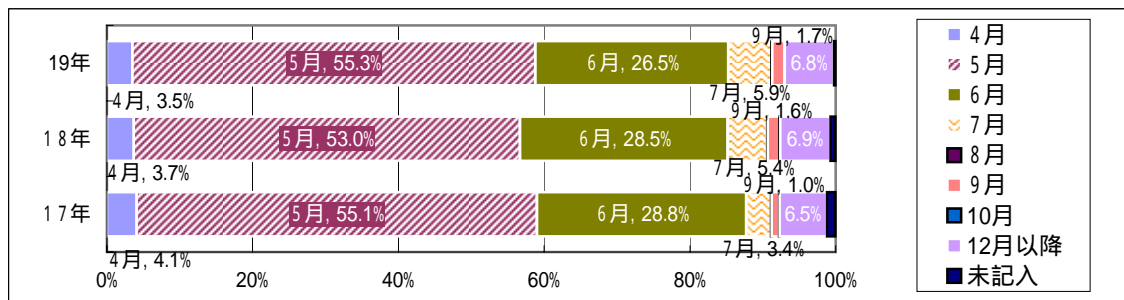
実施の状況（有効回答数データによる）

1. 実施日数

・3日間実施がほとんどで99.6%を占める。

・千葉県では2校が2日間、栃木県で1校が4日間、群馬県で8日間の長期海外旅行が1校ある。

2. 実施月

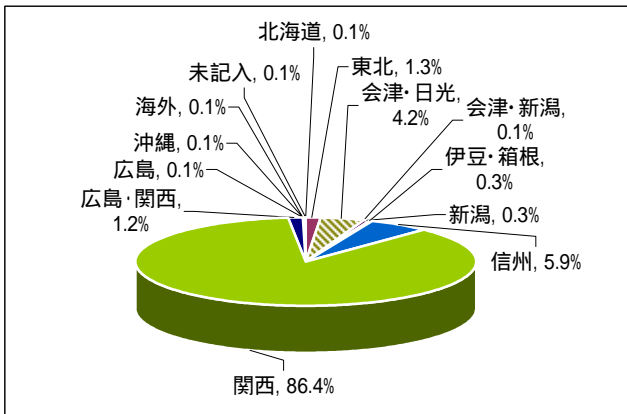


・5月の実施校が55.3%と最も多く、6月の26.5%と合わせると81.8%になる。4月から6月、7月の実施校が例年通り多い。

・9月は埼玉県が16校で次いで栃木県3校、千葉県1校である。やや増加傾向にある。

・12月以降は、埼玉県75校、千葉県6校、茨城県1校、合計82校である。実施校は第2学年である。

3. 実施方面



- ・例年通り、関西方面が圧倒的に多く、86.4%（1,032校）を占めている。
- ・千葉県では、信州71校、会津・日光50校、東北15校、新潟と修学旅行実施方面が多岐にわたっている。
- ・北海道（栃木県）、広島（群馬県）、沖縄（栃木県）海外・ニュージーランド（群馬県）がそれぞれ1校ずつある。

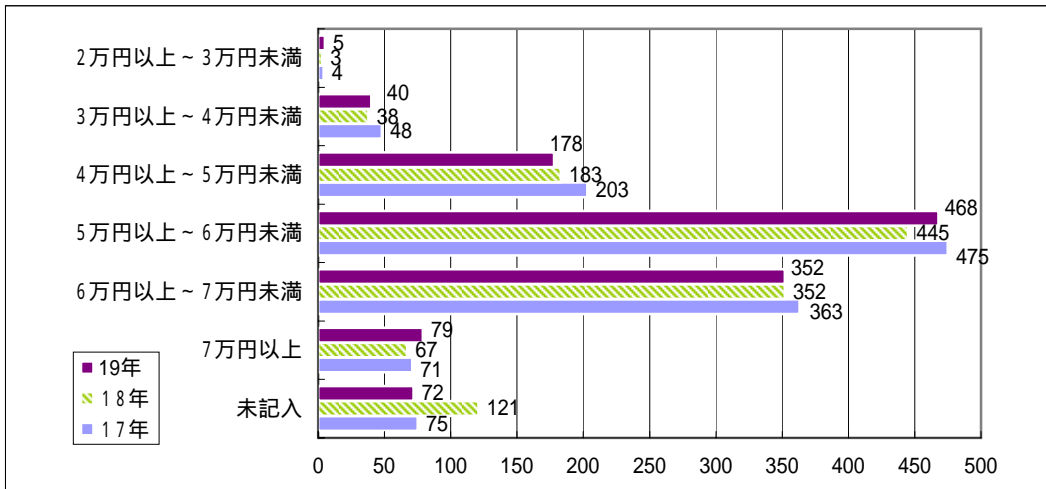
3-1. 訪問地

道府県	訪問地
北海道	道東
青森県	弘前、平川市
岩手県	一関、久慈、雫石、遠野、花巻、平泉、盛岡
宮城県	仙台、松島、宮城県
山形県	山形県、山寺、高畠
福島県	会津若松、あぶくま洞、猪苗代、裏磐梯高原、喜多方、五色沼、高杖高原、プリティッシュヒルズ、松原湖、二本松、台鞍高原、会津高原
栃木県	日光
神奈川県	箱根、横浜
長野県	安曇野、飯田、飯山、小布施、戸隠、長野市、松代、大町、上高地、木曾路、鬼無里、車山高原、黒姫高原、駒ヶ根、下諏訪、白馬、信州、諏訪、蓼科、立山黒部、奈良井、乗鞍高原、武石村、穂高、松本、女神湖
新潟県	阿賀野、十日町、新潟県
岐阜県	高山
静岡県	下田、南伊豆
愛知県	名古屋市
滋賀県	大津
京都府	宇治、京都、南丹市
大阪府	大阪
兵庫県	淡路島、神戸、姫路
奈良県	明日香、奈良、吉野
広島県	広島、宮島
沖縄県	沖縄

4. 宿泊地

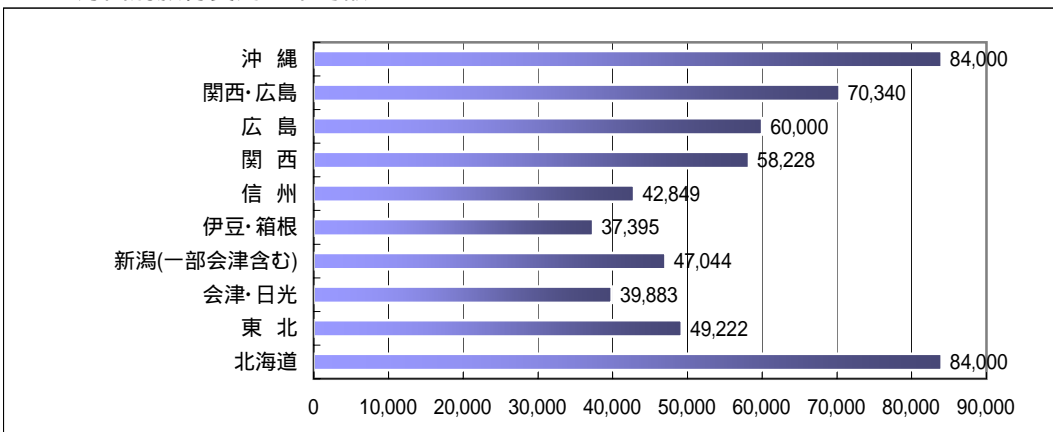
北海道	層雲峡(上川町)、知床
青森県	弘前市、大鱈温泉
岩手県	安比高原(八幡平市)、雫石町、花巻温泉、厳美溪(一関市)、遠野
山形県	天童温泉、高畠町、蔵王(山形市)
福島県	裏磐梯高原、東山温泉(会津若松市)、猪苗代、会津高原、天栄村
栃木県	日光市(日光湯元)
神奈川県	箱根
山梨県	富士吉田市、西湖(富士河口湖町)
長野県	諏訪・八ヶ岳エリア 上諏訪、諏訪湖、白樺湖、車山高原、蓼科、原村、茅野市 松本・上高地・乗鞍エリア 松本・上高地・乗鞍高原・美ヶ原(松本市)、穂高(安曇野市) 白馬・大町エリア 白馬、大町 北信濃エリア 鬼無里・飯綱高原(長野市)、飯山市、黒姫高原 木曾路・伊奈路エリア 奈良井(塩尻市)、妻籠(南木曾町)、飯田市、昼神温泉(阿智村)
新潟県	津南町、十日町市、奥阿賀野(阿賀町)
岐阜県	高山・平湯(高山市)
静岡県	白浜(下田市)、妻良(南伊豆町)
愛知県	名古屋市
滋賀県	大津市、草津市、守山市
京都府	京都市、亀岡市、宇治市、美山町
大阪府	大阪市
兵庫県	神戸市、福良(南あわじ市)
奈良県	奈良市、吉野町
広島県	宮島(廿日市市)、広島市
沖縄県	名護市、那覇市
ニュージーランド	8日間

5. 旅行費用(生徒一人当たり平均額/体験活動費を含む)



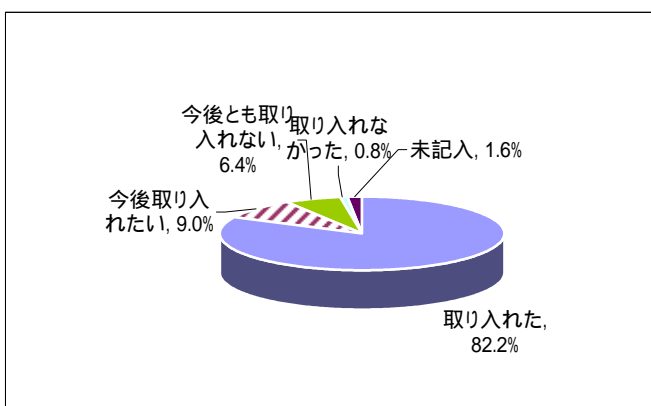
- ・旅行方面、体験活動、班別活動費などの条件により、差がある。
- ・このグラフから、3年間の動きとして4～5万円未満がやや減少し、5万円～6万円未満が増加している。

5-1. 方面別旅行費用の平均額



- ・このグラフから、旅行方面により費用の平均額は大きな差が見られる。

6. 修学旅行での体験学習について



- ・取り入れた(981校)
- ・今後取り入れたい(108校)
- ・今後とも取り入れない(76校)
- ・取り入れなかった(10校)

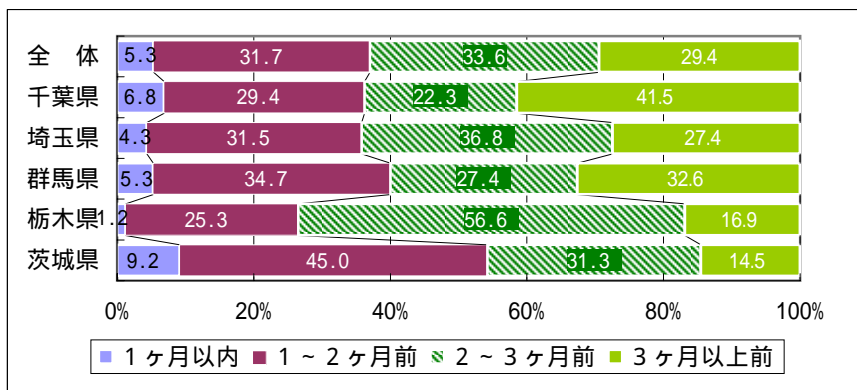
今後の展開に対する回答がなく、取り入れなかったとの回答を集計した。

- ・体験学習に対する関心が高く、「取り入れた」は82.2%(981校)、「今後取り入れたい」を含めて91.2%になる。「取り入れた」学校は、ここ数年概ね80%前後であるが、今年度は、微増である。なお、「今後とも取り入れない」「取り入れなかった」学校は、7.2%あった。

修学旅行の事前学習・事後学習の状況について

各県数値は学校数の割合

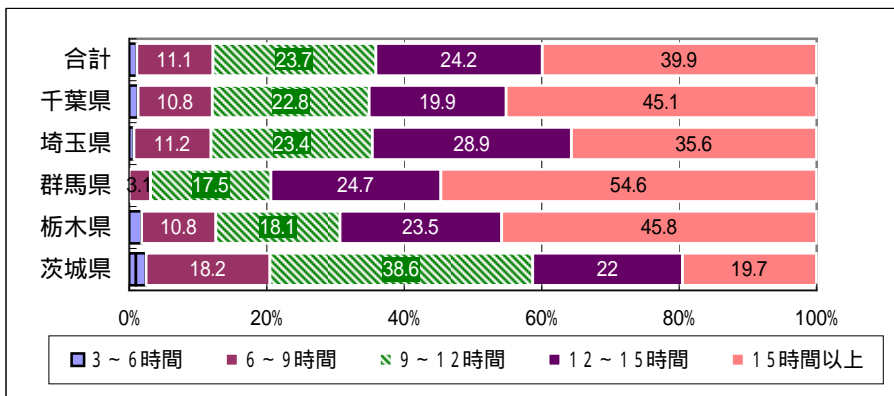
1. 修学旅行の準備の取組み開始日



- ・修学旅行の準備取組み開始日は、1～3ヶ月以上まで学校によって、ばらつきがある。体験学習、班別活動等、生徒の活動状況によって、差が出ている。
- ・県による差も大きい。
- ・5～6月修学旅行実施の学校が多いことから、2学年時からの取組がかなり多くなっている。

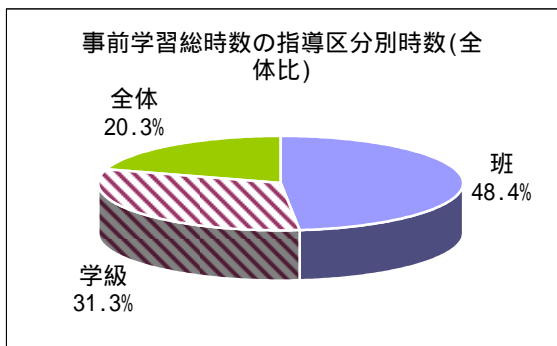
2. 本年度修学旅行での各段階の時数 1単位時間50分に換算

(1) 事前学習の総時数

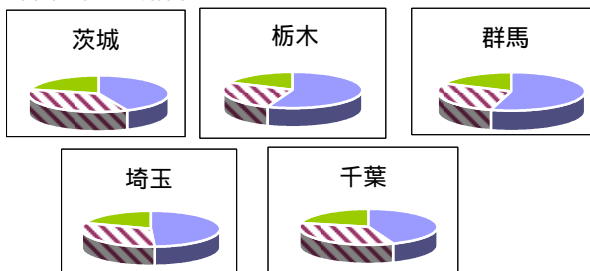


- ・約40%の学校が15時間以上の時間を使って、事前指導をしている。特別活動の時間だけでなく「総合的な学習の時間」との連携も多い。
- ・県差、学校差が大きい。

学習区分別時数

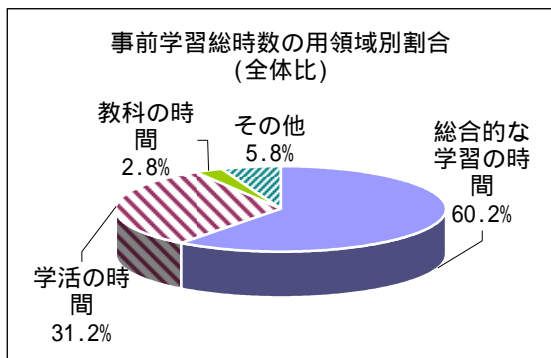


各県別区分割合

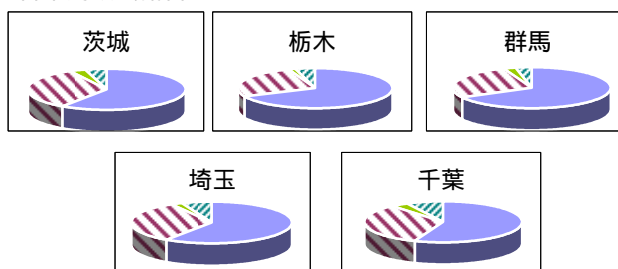


- ・事前学習に於ける時間は、班、学級、全体の順に多い。
- ・各県別に見ても、同じような傾向にある。

使用領域別時数

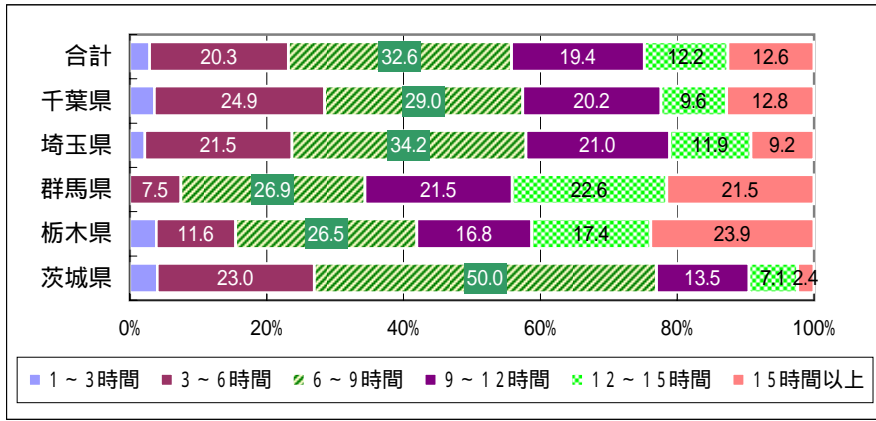


各県別領域割合



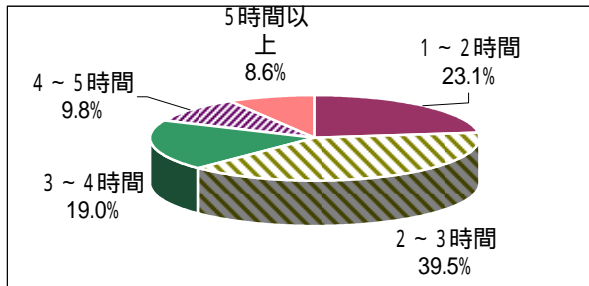
- ・学習領域別における時間の割合は、「総合的な学習の時間」が多く使われている。県別でも同じ傾向にある。

事前学習に関わる使用時数の領域(総合的な学習の時間)



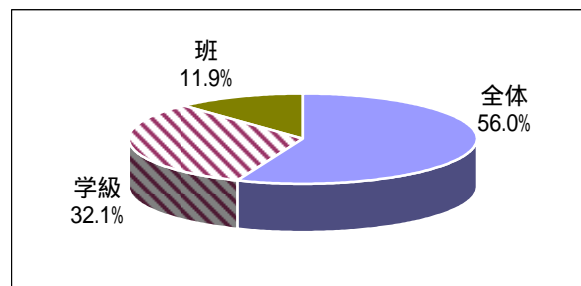
- ・ 5 県合計を見ると、各時間帯に平均的である。学校によってのばらつきが大きい事を示している。
- ・ 県別に見ると、群馬県、栃木県が多い時間帯に寄り、茨城県が少ない時間帯によっている。千葉県、埼玉県は中間にあたっている。

(2) 最終学習の総時数



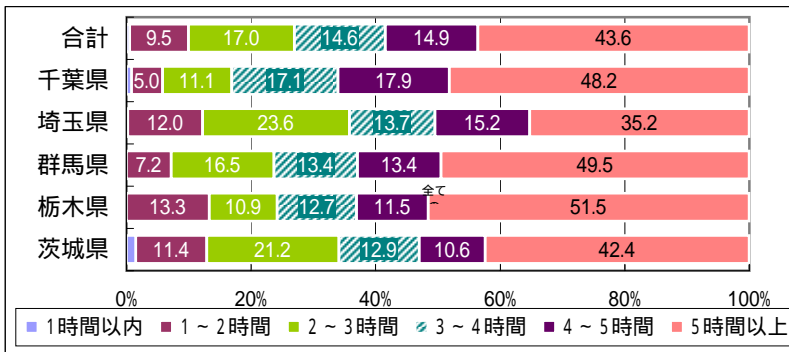
- ・ ほとんど5時間以内であるが、学校による差がかなりある。出発の時期によって、最終学習を十分に取れない場合も多いようである。

(2)-1 学習区分別時数

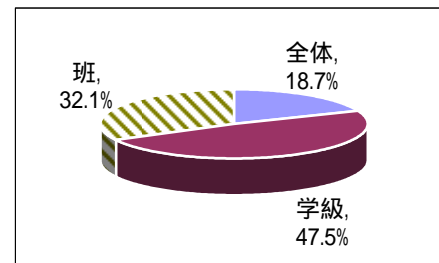


- ・ 修学旅行直前の学習であるから、どの学校でも全体学習が欠かせない。学級や班の学習や確認に時間を使用している。

(3) 事後学習の総時数



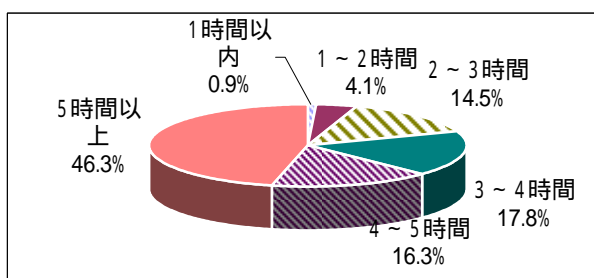
事後学習の指導区分別時数



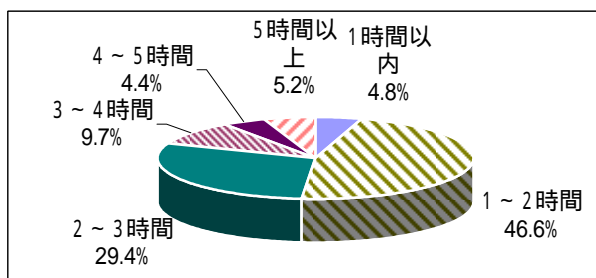
- ・ 約44%の学校が5時間以上を使って事後学習をしている。全体報告会、保護者への報告会、学年集会、学年反省会等が後の記述の中に見られる。
- ・ 学級や班の学習によって、新聞作りや班別学習の反省やまとめの時間を確保している。
- ・ 各学校とも時間の確保に苦労している。修学旅行後の様々な行事で時間の確保が難しいようである。

(4) 実行委員会・その他部会の時数

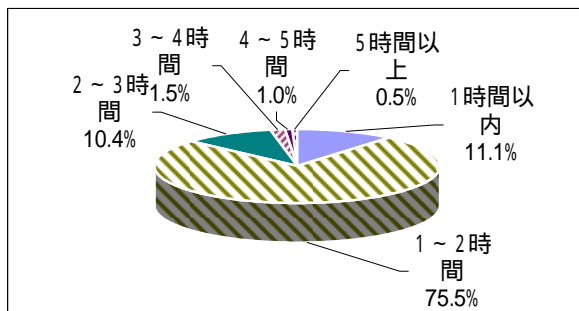
事前学習(しおり・計画表作成・各部会の決まり作成他)



最終学習(しおり・計画表の作成・決まり確認他)

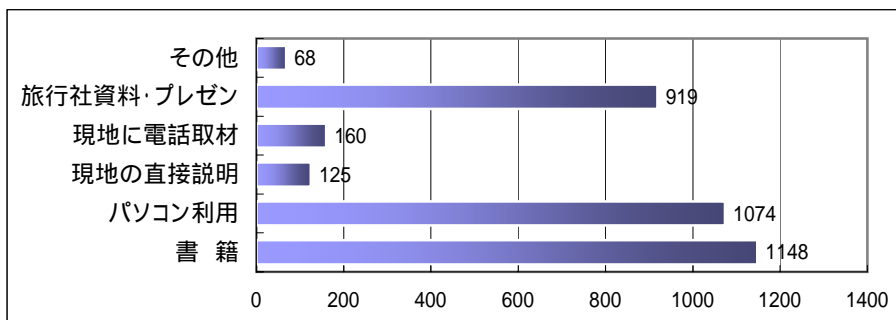


事後学習（反省会）



- ・生徒の主体的な活動を重視しているため、リーダーの活動の拠点である実行委員会や様々な部会の活動は欠かせない。特に事前の準備には5時間以上が半数近くを占め、その重要性が伺われる。
- ・しかし、後述の課題にあるように、活動の時間を確保することが非常に難しい。早朝、休み時間、放課後、休日の活動も多い。

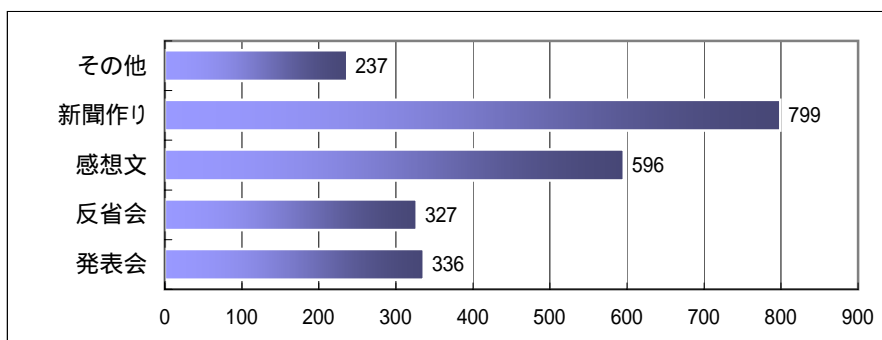
3. 学習内容を深めるための情報収集方法（複数回答）



- ・旅行雑誌等数多くの資料を使用している。
- ・班別学習が増加し、調べ学習にパソコンを利用しているが、大規模校などパソコン教室の割り当てが少なく使えないケースもある。
- ・旅行会社の資料やプレゼンテーションも多い。
- ・最近では、現地から直接情報を、もらうケースも少ないが出てきている。
- ・その他の少数意見であるが参考になりそうなものもある。

その他主な内容	その他主な内容
・ 現地タクシー会社からの資料	・ 過去の学習資料
・ 下見、予察時の資料情報	・ 現地との手紙のやりとり、文通
・ 教師の説明、アドバイス	・ 個人持ち資料
・ 社会科での現地の地理、歴史学習	・ シルバーガイド
・ 市発行のパンフレット、VTR、DVD	・ 旅行雑誌、時刻表
・ JR東海のCMを集めたVTRの視聴	・ 教育委員会資料
	・ ポートフォリオ

4. 事後学習でのまとめの方法（複数回答）



- ・個人、又はグループによる新聞作りや感想文などが多い。
- ・学級や学年全体の反省会や発表会も定番となっている。
- ・その他の少数意見の中には学校の特色を打ち出されているものが多く参考になるものも多い。

その他主な内容	その他主な内容
・ 旅行記、旅ノート、紀行文、報告書(レポート)	・ ポートフォリオ作成
・ 教科との連携(絵巻作成・美術科、後輩のためのパンフレット作り・国語科)	・ ホームページ作成
・ 記録集の作成(アルバム、スケッチブック)	・ CM作り
・ 俳句、短歌、英作文、文集	・ 体験記録
・ 評価カード、達成度評価カード	・ アンケート調査
・ 総合学習での追求、結果のまとめ	・ 写真展、パネル作成
・ 次学年へのメッセージ作成	
・ 感謝、お礼の手紙	

5. 時数確保の工夫と課題＜集約＞（9P～18Pに記載）

アンケート調査の結果から

今日、修学旅行においても「生きる力」を育成する観点から、改めて、その意義・ねらいについての正しい理解と、充実した魅力的な企画・運営のあり方が求められている。

今回は、「修学旅行の事前指導・事後指導」についてのアンケート調査を実施し、分析した。以下、調査結果の特徴的なものを報告する。

(1) 各段階の時数から読み取れること

修学旅行はほとんどが2泊3日で行われているが、その3日間を有意義に充実させるためには事前指導が重要であることは言うまでもない。調査では、事前指導の総時数が15時間を超えた学校は4割以上、12時間以上を加えると6割を超える。最大は49時間である。そのうち、領域別の使用時数は総合的な学習の時間が約6割、次いで学活が3割である。いかに総合的な学習の時間とリンクさせているかがわかる。

事前指導・事後指導とも国語や社会、美術、技術家庭等、教科との関連を図ってはいるが、それらは時間に制約がある。そこで、総合的な学習の時間の「ねらい」から逸脱することがないよう各学校とも年間計画や指導計画の立案を図っているようである。

事後学習においては総時数は平均すると5時間弱である。そのうち学級と班を合わせると8割近くになる。修学旅行が1学期の半ばを過ぎてしまうと、事後学習にそれほど時間を割くことができない。まとめの方法もさまざまな工夫がみられるが、感想文、新聞作りが6割を超える。修学旅行は楽しかった、思い出に残ったで終わらせることなく、学びの締めくくりをして、その後の生徒の「生き方」の向上につなげていく必要がある。

(2) 時数確保の工夫から学ぶこと

修学旅行の時期が関東5県のローテーションによるため、毎年同一時期にはならない。5月の上旬であったり7月の上旬になったりもする。がしかし、それは実施の2年前に決定していることだから、それにしたがって計画を立案することになる。5月上旬実施の学校にあっては2年次からの指導計画を立てている学校がみられる。また、教科との関連を図ったり、総合的な学習の時間とリンクさせている学校が多い。また、朝学習、昼休み、放課後に調べ学習や、実行委員等の指導の時間に当てる等の工夫もみられる。また、修学旅行前に家庭訪問を実施する学校はその期間中に副担任が生徒の指導に当たることも有効ではないだろうか。

いずれにしても、十分に指導の時数を確保するためには長期的な計画を立案することが望まれる。

(3) 今後の課題（調査から見える共通の課題）

アンケート結果から、今後よりよい修学旅行を推進していくための課題として次のようなことをあげることができる。

他行事との調整を図る

教育課程のうち学校行事を計画していく際には修学旅行が優先される必要がある。1学期もさまざまな行事や教育活動を実施しているところから、学校においては前年度から教育計画を練りあげていかなければならない。その際、他の行事等が毎年一定の時期にできないことの共通理解を図ることも必要である。

また、対外的には部活動の大会（特に地区予選会）の時期は修学旅行を避けて開催する必要がある。これには中学校体育連盟との申し合わせをしなければならない。

時数の確保を図る

学習指導要領の特別活動、旅行的・集団宿泊の行事の中に「内容に応じて各教科、道徳、総合的な学習の時間、学級活動などに関連を図り、事前及び事後の指導を適切に行う」とある。したがって、早い時期から長期的な教育課程の全体計画を立てる必要がある。

学習方法の工夫を図る

事前学習が十分でない、事後学習でも「学び」が深まっていけない。そのために、時数が確保された上で、事前学習の工夫が図られなければならない。教科での関連させた学習はもちろんであるが、調べ学習では、ガイドブックの利用、図書室(館)の利用、インターネットの活用、現地(訪問地)の人との事前連絡等、さまざまな工夫が考えられる。特に、インターネットの活用は有効である。

まとめ(関修委からの提言)

(1) 事前指導・事後指導実施の教育的意義

修学旅行は学習指導要領に「平素と異なる生活環境にあって、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、集団生活の在り方や公衆道徳などについての望ましい体験を積むことができるような活動を行うこと」とあるように学びの場である。

学校で学んだことを現地で学び、そして事後に学びを深める。それら学びの連続の中で「生きる力」が育まれていく。そこに修学旅行の教育的意義がある。

(2) 事前学習・事後学習の留意点

事前学習・事後学習とも時数を確保するのがむずかしい状況ではあるが、それらも教育課程の中に位置づけ、ねらいや生徒の実態に即して具体的、かつ長期的な計画の立案が望まれる。それらの活動は単年度単発で終わらせることなく、資料等の蓄積を図ることによって、次年度以降の生徒の学習活動に資することも重要である。

また、生徒一人一人を生かすよう指導と評価を工夫することも必要である。

(3) 提言

修学旅行はわが国独特のものといわれており、その淵源は江戸時代の社寺参詣と考えられている。昭和33年の学習指導要領で修学旅行は教育課程に位置づけられ、翌年から修学旅行の専用列車の運行が始まった。

修学旅行は中学校生活3年間の最大のイベントと言っていいほどの学校行事である。そして、それは自然やわが国の伝統的な文化や歴史などに触れる絶好の機会である。それ故、生徒の大きな思い出ともなっている。修学旅行の内容も時代とともに変わってきており、学年全体での見学地訪問から、今では班別行動や体験学習がほとんどの学校で行われている。各学校とも、修学旅行のねらいにそって、工夫した魅力ある修学旅行の実践に取り組んでいるところであるが、さまざまな行事や教育活動も同時にあり、指導の時間を生み出すのに苦労しているのも現実である。

今回、「修学旅行の事前学習・事後学習」のアンケート調査を実施し、その結果を基に関東地区公立中学校修学旅行委員会として、更なる修学旅行の充実を目指し次の提言をする。

修学旅行の目的や役割を学校教育全体から見直し、第1学年から段階的に指導していくこと。

内外の他行事等との調整を図り、長期的な全体計画を立案することによって、指導時数を確保し指導の効率化を図ること。

学校の創意工夫を生かした指導計画の下に、事前・事後指導を通して生徒の主体的な活動を重視し、自主的・実践的な場面の増大を図り修学旅行を実施すること。

事前・事後指導においては、各教科、道徳、総合的な時間との関連を図り、学びを通して生徒の「生きる力」を育むこと。

5. 時数確保の工夫と課題<集約>(総計)

工夫

(1) 計画の立案と早めの取組み(223)

計画の立案(51)

- ・年間計画への位置づけ。(4)
- *すべての行事日程を把握し、きめ細かい計画の作成を心がけた。(2)
- ・全体計画を綿密に立案すること。昨年度以前の使える資料はデジタル化し、共有出来るようにする。
- ・細かな全体計画を具体的に生徒に提示して、各時間の活動を明確にしている。(4)
- ・より計画的な授業実践及び綿密な作業計画。(14)
- ・3年間の旅行的行事のねらいを明確にし、長期的な見通しの中でプランニングした。(5)
- *2年生での校外学習と関連させ、効果的効率的に生徒が活動できるよう指導方法に工夫改善を図った。(5)
- *1年では宿泊を伴う学習、2年生では、JRを利用しての校外学習(1日)を行い、修学旅行に生かした。
- *ねらいと標準時数を提示
- *学年当初からの学活等の修学旅行までに学習する内容の計画を明確化しておく。
- ・事前に指導計画を立て、計画的に取り組ませ効率化を図った(4)
- *生徒の主体的計画と主体的実践 ・班長会の活動 ・短期間に集中した計画と合理的な計画
- ・学活の時間と総合的な学習の時間との関連付けをし年間指導計画に位置づけ(7)
- *総合的な学習の時間の活用と時数確保 指導計画の作成
- ・各教科,領域を横断したカリキュラムを工夫することで、より実りあるものになるのではないか。(総合単元的なもの)
- ・教務と連携して特別時間割で行った。実行委員会は昼休み、放課後に行った
- ・町づくりについて考える学習の一つとして位置づけ現地調査等取り入れている

早めの取組み(61)

- ・2学期末実施により事後指導の時間がゆとりを持って取れる。(56)
- *早めの準備委員会、事前学習、ルールや持ち物学年目標の設定、班別コース、実行委員会、
- *早い時期(2年3学期から、12月から等いろいろ)から計画的に活動、生活のきまり等も前年度に決定しておいた。
- ・班別行動のコース(仮)を2学年の時に作成させていたので、3学年に入ってから計画作りがスムーズに進んだ。
- ・見学を希望する社寺についての事前学習は2年生の春休みの課題として取り組ませ3年次の事前学習は、班テーマやコース計画の立案に時数を確保する
- ・4月から計画的に事前準備(事前学習の係活動)を行った。(2)

時数の確保(92)

- ・生徒各々が明確な課題を持って修学旅行が行えるよう十分な事前学習の時間を設ける。
- ・特別活動の時間をうまく活用。(4)
- ・学活の時間を中心にしてグループ活動の計画を立案、また放課後の時間も活用した
- ・正式日課になる前のオリエンテーション期間の学級・学年の時間を活用した。(33)
- ・他の行事との兼ね合いでの時間の確保(5)
- *他学年の行事の時に、時間を確保(2)、家庭訪問(午後)の時に、学級担任以外の学年職員が指導する。(2)
- ・時間割の工夫(5)
- *年間時間割を4パターンにして、修学旅行の事前・事後の時期は総合の時間が多いパターンの時間割にしている。
- *本校独自の教育課程により、指導の時間を確保しやすかった。
- *早めに準備に取り組んだために特に時数確保は問題なし。
- *教科や選択などの時間も、計画的に使うと、もう少しゆとりを持って事前・事後学習ができるかもしれない。
- ・授業の組み替え、総合的な学習の時間のまとめどり等をしました。(34)
- *教務主任との調整、時間割の変更・先取り等、
- *45分短縮日課にして、帰りの会20分を40分にして活用。
- *時間割を変更してなるべく学習の時数を確保した。(5)
- *総合、学活等を利用するので、時期でまとめ取りを行い、授業の交換等を行って時数の確保に努めた。
- *学活の時間をまとめ取りし(2時間通し)効率アップを図った。(2)
- *共通理解が必要な内容については、全体指導の時間を確保するようにした。(3)
- *単学級なので実行委員兼班長という役割分担で、班の話し合いに実行委員会で決めた内容が伝えやすかった。(5)
- ・行事の調整(取組に弊害が生じないように)
- ・行事等での授業カットを考慮して時間確保を4月の段階で行う。
- ・今年度コース変更のため、学校全体が修学旅行の計画を優先して、時間確保については苦労がなかった。
- ・毎週、月・水曜日にある委員会優先の放課後の時間を活用した。
- ・課外の「学級優先の時間」を学年一斉で使う。
- ・金の6校時(調整コマ)を利用しての集会の実施。
- ・休み時間、総合の時間、学年での優先時間(放課後)を使った。
- ・事後学習は、たまたま大会中の学年内授業が利用できたのでよかった。これは、日程との関係もありますが本校はたまたま利用できました。
- ・学級で使える時間は全て使うことにしたが、工夫といえないかも。
- ・事後指導の時間不足
- ・事後指導は帰校翌日、4時間をまとめ取りした。
- ・決められた時数で行った。
- ・学年として、教科、道徳の時間を振り替えることなく時間を確保することが出来た。
- ・旅行期間が5月の連休明けにあると、事前学習の時間の確保が大変である。

組織と取組みの明確化（１９）

- ・教師側の指導部分と生徒が自主的に取り組む部分の明確化（３）
 - *班や係でやることを明確化し、学級や全体で行うことを出来るだけ減らした。
- ・取り組む内容について事前に打ち合わせを行うことで無理なく準備を進めることができた。（２）
- ・実行委員及び全体・班活動の先を見通した細かな計画立案。（５）
- ・役割分担を明確にし、各責任者が学習プリント等を十分に活用したため、短時間で効率的に学習を進められた。
 - *班の中での組織を明確にして、ひとりひとりに役割を持たせる。（２）
- ・通常活動している組織や委員会をそのまま活用する。（２）
- ・集会形式で、全体指導と係別の指導・グループ指導を同時に行った。（３）
 - *コース別や学級別の内容は、パワーポイントでプレゼンテーションを行った。
- ・京都市内班行動と生活班のメンバーを同じにし、話し合い活動における時間を有効に使うことができた。

（２）意識づけ・意欲化（１２）

- ・計画の立案をしっかり行う。総合的な学習の時間を活用した意欲付け。
- ・タイムリーな学習内容と学習計画。
- ・２年生からの指導による、意識付け。
- ・事前学習を深めることで班行動作りの意識が高まった。（２）
- ・活動内容を練り上げ、能率良い活動ができるようにした。
- ・信州の自然についての学習を増やし、生徒の興味を引き出した。
- ・教室に常に資料を置いておき、生徒の意識化を図っていった。
- ・実行委員中心に、自分たちの修学旅行という意識化させ活動させる。そのため、実行委員との話し合いを重視する。
- ・全校報告会を実施。
- ・授業参観時に修学旅行に関する班の発表を行う(学年全体で取り組む)

（３）資料の収集（２８）

パソコン、インターネットの活用（１７）

- ・PC（インターネット）の活用（６）
- ・総合学習の時間を割り振って、コンピュータ室の利用が出来るようにした。（３）
- ・事前学習では、各家庭のインターネットを利用させた。
- ・事前・事後学習をPC利用で行いたいのので授業変更し、すべてのクラスでPCを利用できるよう工夫した。（６）
- ・事後の新聞作りを、パソコンを使って行い、実感させた。原稿作りは学級活動で、写真の取り込みやレイアウトなどは技術・家庭科の教師の指導の下、総合の時間でそれぞれ行った。
- ・時間削減のため、業者と連携し、コンピュータを積極的に活用した。

資料の準備（１１）

- ・より多くの資料を収集し生徒の課題に応じられるようにした。（６）
 - *計画的に資料を用意して、作業の効率化を図る。
 - *旅行者との情報交換及び情報の入手。
 - *下見にてたくさんの資料を確保し、生徒の計画作りの参考とさせた。
- ・ガイドブックを１人１冊購入したことにより、全員が課題意識を持って取り組めた。
- ・前年度からの下調べ等を実施する中で、昨年度のしおり等を参考にした。
- ・２学年の１月から、ガイドブックの作成を行った。（A5版 70ページ）作成段階で調べ学習になった。
 - *ガイドブックを解きながら学習した。
- ・事前学習の内容をしおりに添付して一層の効果を図った。
- ・毎時の活動に具体的ワークシートを用いる

（４）指導の工夫（５８）

教師（１０）

- ・事前に教師行動マニュアルを作成し、大まかな行動を教師が理解し指導にあたった。（５）
 - *指導内容を事前に確認し、精選し、時数減に努めている。
 - *生徒が短学活で活動しやすいよう教師側の準備を十分に行う。
 - *決められた時間に仕上がるよう、教師の事前準備を多くした。
 - *学年会で綿密に検討し、旅行会社とも細部にわたって確認するようにした。
- ・学年で共通理解を必要とする内容については、全体指導できるようにした。
- ・生徒指導面と合わせ、生徒指導の充実と教科（特に社会、国語）での生徒の興味、関心に合わせた取り組みをするなど意識的、計画的な取り組みが必要。
- ・学習指導は、時間をかけてじっくり行うものと、短期集中で行うものとのに分ける。
- ・レポートの書き方を指導して、必要な情報を集められるようにした。
- ・事前学習において発表会を開くことにしているが、発表資料作りにおいて短時間できれいにできるようまとめ方を工夫している。

旅行会社・関係機関の活用（４）

- ・教師ばかりでなく、担当の旅行会社の方にも班別コースをチェックしてもらうことができ助かった。
- ・旅行会社の活用を図る。
- ・旅行会社のシュミレーションは役立つ。
- ・民泊との連絡方法。

生徒の取組み（33）

- ・実行委員と各係を中心に計画・運営等を進め、生徒たちの活動を重視した。（9）
- ・係りの活動は、一斉に展開するようにした。
- ・係別活動と学習を組み合わせ、能率的に活動を進める。
- ・組織数（係数）を増やし、多くの教員でかわりをもつ。
- ・生徒の係を1人1役とし、なるべく授業時間内に係活動も位置づけられるようにした。
- ・班で学習（現地の見所・コースづくり）する前に個人で学習をさせておくことで、班での活動がスムーズに出来た。
- ・班行動の日程決めには、班員各々が行ってみたい所のプレゼンを開き、その情報をもとに行程を決めさせる。
- ・2年次に修学旅行の事前練習として班別行動による鎌倉遠足を実施した。
- ・京都、奈良学習のための資料とワークシートを作成し、効率よく行えるようにした。
- ・学年で学習内容を分担し、新聞やポスターなどで知識を共有した。
- ・大きな部屋にクラス関係なく大勢集めて、TTの形で行ったほうが、目が届くので時間短縮になる。
- ・班単位で発表会、新聞作りを行い、仕事を分担。
- ・事後学習に生かせるよう現地での記録を詳細にさせておく。
- ・総合学習の時間を使い、修学旅行ノート作りを行った。
- ・スクラップノートを活用。印刷物を貼り付けることで、しおり製本の時間を短縮したり、生徒がプリントアウトしたものを添付したり有効活用できた。現地で撮影した写真も貼り付けることができるので思い出作りにもなった。
- ・グループで一つの新聞を作るよりも、個人で一つのレポートを作るほうが、全員が作業できるし、時間もかからないので個人でまとめさせた。
- ・各自にテーマを持たせ、総合学習の時間の中で旅行体験のスキルを身につける取り組みを入れている。

時程（8）

- ・事前の計画を効率的に進め極力教科の授業時間の確保に努めた。
- ・限られた時間内で行える活動のみで努力している。
- ・できるだけ担任が出席できる時間帯に集会を開いた。
- ・2学級をそろえて活動させるときと時間をずらして活動するときを使い分けた。
- ・準備期間が長いと活動が間延びするので、いろいろな時間をやりくりして、短期間での取り組みにする。（3）
- ・パソコン室の利用について、授業を入れ替えて行うこと。

その他（2）

- ・事前学習において、現地調査だけでなく、地域学習との比較等も行う（総合学習）
- ・時間を多くかけすぎないように、下準備をしておく。

（5）総合的な学習の時間（349）

総合的な学習の時間と学活の時間（67）

- ・学活や総合的な学習の時間を年間指導計画に位置づけて有効に活用している。（37）
- ・総合的な学習の時間だけの修学旅行でなく学活やその他の時間を横断的に活用することで、様々な事柄に関連づけた。
- ・2, 3学年合同の修学旅行のため、学活と総合的な学習の時間を同一時間に設定してもらった。
- ・班活動や全体で考えると総合的な学習の時間を使い、学級で指導できるところは学活でと区別した。（9）
- ・組織として動く場合を学活の時間、調べ学習等個人で動く場合を総合的な学習の時間として活動した。また、選択授業での補充的学習としても時間を確保した。
- ・学活の時間や総合的な学習の時間を極力、修学旅行の事前学習・事後学習に充てるとともに、道徳の時間に決まりの遵守や公共心を養う指導を行った。
- ・学活、朝・帰りの会や総合的な時間を計画的に活用した。（18）

総合的な学習の時間のテーマと修学旅行の学習内容をリンク（102）

- ・3年生の総合的な学習の時間のテーマを修学旅行に関連づけて集中して取り組めるようにした。（36）
- ・修学旅行の活動を課題探求学習と位置づけし、総合的な学習の時間を活用する。（2）
- ・総合の時間（週3）に修学旅行の研究テーマを設け調べ学習をしているので、時間が不足することはない。（59）
- *総合的な学習の時間のテーマを「国際理解」とし、年間指導計画に位置づけて、時数の確保に努めている。（8）
- *総合的な学習の時間のテーマを日本文化に設定。各自テーマごと事前の学習に取り組んだ。（5）
- *総合学習で1年間「日本を知る」をテーマに学習。そこに修学旅行を位置づけた。よって1年間の活動であった。
- *総合のテーマが「日本、そして世界へ」なので、日本の文化や伝統を学習しそこに修学旅行を位置づけた。（2）
- *歴史的な文化遺産や地方・風土の研究ということで、総合的な学習の時間と関連づけて、時間の確保した。（7）
- *京都・奈良について調べる学習を2年3学期より続けてきた。総合の時間のほとんどを当てていた。（7）
- *総合的な学習の時間に「地域」というテーマ（課題）を設定し、時数確保を行っている。
- *総合学習の一環として2学年の後半から、文化の違い等について調べ学習を進め、効率よく時間が使えるように計画表等を作成して行った。（2）
- *総合の時間を使ったが、今年は総合のテーマを、「自分たちの地域と大都市との比較」にしたので、総合のための調べ学習がそのまま修学旅行の学習になった。
- *総合的な学習のテーマ設定（各班、個人の課題設定）（2）
- ・人と人の心のふれあいや郷土愛などは道徳的な領域に、学級でのプランニングや決まりの決定は学活の領域に、
- *学年全体で取り組む内容は総合的な学習の領域へと振り分けて確保した。
- ・総合学習の一環として行わない。本市や町について住みよい町作りに合わせて行っている。
- ・総合的な学習の時間を使い、連続した時間を確保して、班のコース作りや事前の調べ学習ができるようにした。（2）
- ・総合的な学習の時間を情報教育の時間として活用し、パソコンを利用し、班別行動のルート作りや、見学先の調査。

総合的な学習の時間の活用（180）

- ・総合的な学習の時間を年度初めから計画的に旅行事前準備指導時間として組み入れ、時数の確保を行った。（179）
 - *前年度2月ぐらいから、事前学習、コース作りの練習に入る。総合の時間を工夫してやり繰りする。
 - *週3時間の総合の時間で計画的に取り組めた。訪問体験もクラス枠をとり希望コースで学習を進めることができた。
 - *総合的な学習の時間の年間指導計画を立て、学習ブックを作成、細かく実践している。そのため総合優先のコマ組。
 - *2年2月から総合的な学習の時間を事前学習に位置づけ班編成などを計画的に行った。
 - *「総合の時間」を最大限活用し、合同帰りの会や学年独自の時間を確保しながら、実施した。放課後の活動を含む。
 - *総合的な学習の時間を使って行った。パソコンを使って調べ学習をすることができた。
 - *新聞作り等で総合の時間を確保した。（2）
 - *総合的な学習の時間への位置づけと放課後の時間の確保。
- ・総合の時間に振り替えて、あとで授業に戻す。

（6）他教科との関連（28）

- ・総合的な学習の時間や教科の時間をそれぞれの目的との調整を図り学習の一環として事前調査を行う。（28）
 - *社会科の授業との連携を図り、事前指導を進めた。（8）
 - *京都の学習レポート作成、教科に関連づける、歴史学習の発展、等
- ・国語科の授業との関連をはかり、事前・事後指導を進めた。（5）
 - *国語科「近代の俳句」の発展としての俳句作り、鑑賞の事前学習、新聞作りと発表会、等
- ・美術の時間との連携（2）
- ・複数教科、領域との連携（13）
 - *総合と社会と国語、総合と国語と美術（5）、総合と社会と国語と美術（3）、総合と社会と英語、
 - *総合と社会と英語、総合と国語と英語、総合と国語と英語と体育

（7）昼休み・放課後・その他の時間（120）

部活動の時間の確保（16）

- ・各部活動の大会練習時間確保のため、実行委員会は放課後を避け、早朝に実施した。（2）
- ・部活に参加できる時間を確保するため、事前指導の計画を明確にし、会議等はなるべく昼休みに行った。（9）
- ・3年生にとっては、部活動の時間も大切にしたい時期であり、できるだけ放課後の活動を行わずにすむようにした。（学活、総合の使い方。同時に進められるものの組み合わせ）
- ・実行委員会は部活動など他の活動に支障がないように昼休みを利用し、短時間で効率的に行うようにした。
- ・部活動のない曜日の利用。（2）
- ・実行委員会の活動時間については昼休みや長期休業中を中心に確保して部活動に影響が出ないように配慮した。

早朝の実行委員会（2）

朝の会・帰りの会（15）

- ・朝の会・帰りの会を延長して、学級活動を実施。（2）
- ・事前学習。
- ・学年集会の時間が取れない時は、合同の帰りの会を実施。（6）

朝読書・朝学習（11）

- ・朝学習の時間を利用して、事前学習を行い、時間を確保する。（3）
- ・朝読書の時間帯に事前学習を実施。（通算30時間）
- ・作業は朝学習、昼休みを使い行った。

昼休み・休み時間（15）

- ・実行委員会等を昼休みに行った。（5） ・学年評議会。
- ・係会議、係活動、班別学習、まとめ作業。（5）
- ・子どもたちの休み時間を使うこともあった。（4）

放課後（46）

- ・係会議、班別学習などは、放課後に行う等で、時間の確保を図った。（13）
- ・実行委員会（11）
- ・学習を進める上での個人差を考慮し、放課後個別指導を行った。

自習時間に事前学習をした。（3）

長期休業中や休日にも実行委員会を行った。（3）

時間がなく春休みや通常にも家庭で宿題として、事前調べ学習のまとめや、新聞作りなどを行わせた。（2）

その他（7）

- ・3年生の部活が引退していたため、昼休みや放課後の時間帯を活用した。
- ・保護者会の時間と並行して、教員2～3名で全クラスに対応して、班別コース作成の時間を確保した。
- ・壁新聞は記事の分担を決め、各自でまとめるようにした。
- ・時数を減らすために、事後の新聞作りを個人新聞にした。
- ・家庭訪問期間の午後、副担任監督の下事前学習。（2）
- ・家庭訪問期間中に実行委員会を開き、決められたことを、学級へ新聞を作って掲示させた。

（8）その他（時数の確保でないもの）（6）

- ・体験学習を今後の生き方いかに生かすかを計画すること。
- ・タクシー会社の検索システムが有効であった。
- ・教育課程の円滑な実施。
- ・事後学習はパワーポイント利用による班別発表。
- ・学期をまたいだ場合資料紛失に注意が必要。
- ・旅行終了後から1か月の間に反省会やまとめの作業をおこない文化祭展示に備える。

課題

(1) 時間の確保(425)

他行事との調整(83)

- ・その他の学校行事・部活動の大会等の関係で、事前学習や実行委員会の集まりの時間が確保しづらかった。(22)
 - *修学旅行だけに総合の時間を使わず、時間的にきびしく、できる範囲内の事後学習となってしまう。
 - *他の行事、授業時数の確保との関連で時数確保が難しかった。(7)
 - *2月に行うので、下校時間も早く期末テスト、3年生を送る会、卒業式との兼合いが難しい。
 - *他の行事と並行して準備するのでかなり早くからスタートすべきであった。(2)
 - *年度始めの行事等により、総合学習の時間が削減されないよう、教務主任との連携を図る。
 - *学校行事等で授業カットや変更があるので時数確保が難しい。(2)
 - *修学旅行の取組みを優先するため、他のテーマが先送りになることが課題である。(2)
- *重なる校内行事(78)
 - 学級開き(3)、学級組織作り(5)、他の学級活動(1)、学年活動(2)、家庭訪問(3)、生徒総会(14)、新入生歓迎会(1)、送る会(2)、卒業式(1)、他学年の旅行的行事(1)、定期テスト(14)、進路指導(3)、避難訓練(1)、体育祭(20)、総合体育大会(4)、連休(2)、長期休暇を挟む(1)、

実施時期との関係(55)

- ・3年生の春に行くのには、どうしても時数確保が難しい。(43)
 - *事後のまとめの時間があまり取れない。1学期に実施するのは忙しく時間を生み出すのが容易ではない。冬(2月)に戻したほうがベター。
 - *5月の修学旅行は、新年度が始まってから行事等もあり、あまり時間がとれない。前年度に見通しを持って、教育課程を進めていくことは至難の業である。(5)
 - *準備が前年度から継続されるので、学級や班活動の進行状況の把握と引継ぎの点に課題が残る。(4)
 - *学級編制が実施されると、班・学級での取り組みに時間がかかる。(早い時期の修学旅行)(16)
 - *ゴールデンウィーク前後、準備の時間が取りづらいことがあるため、時数確保が難しい。(4)
 - *6月下旬だったので、新年度のスタートであったが、時期のよっては2学年から指導を進めていく必要がある。
 - *2年生の頃から準備を始めておけば、さらに余裕をもって計画を進められたと思う。(5)
 - *学年が進級した際の前学年からの学習内容の引継ぎをしっかりと行う。(2)
- ・1学期後半の修学旅行(4)
 - *落ち着きにかける。 *間延びする。 *事後学習が実施しにくい。(2)
- ・時期によっては修学旅行以外の学習活動の必要もあり、時間確保が難しい。(2)
- ・時期的な問題(1月実施)から事後指導学習に時間がかけれない。
- ・期日が限定されているので、十分な時間がとれないことが多い。(2)
- ・時期が一定でないため使える時間が一定とは限らない。
- ・学校の日程と旅行の日程があわなかった。
- ・長期的な(1学年からの)活動計画の立案と展開の工夫。

時数の確保(121)

- ・時間の確保はとても厳しく、事前の学習の確保は不十分だった。(70)
 - *時間をまとめてとることが難しい。(16)
 - *学級活動以外に総合的な学習の時間を使わざるを得ない。
 - *事前学習の時間数の確保。(17)
 - *修学旅行の直前に、ある程度まとめた時間が確保できるとよい。
 - *修学旅行のテーマとも関わる事前の学習をどこまで詰めるかで随分、時間が変わってくる。総合、教科での学習といくことは至難の業である。
 - *他学年との調整、担任負担増。
 - *一部分(リーダー)の生徒の活動時間の確保が難しかった。
 - *実施1ヶ月前から、学活や総合の時間が、事前・事後の時間となってしまう。
 - *学年スタッフが大幅に変わったので、一からスタートということで、日程的に事前指導が厳しいものがあつた。
- ・授業、道徳との関係(6)
 - *予定時間内で全てを消化できず、やむを得ず教科等の時間を振り替えてしまうことがあつた。
 - *学活の時間を用いることが多く、どうしても教科の時間を学活に使用してしまいがちである。
 - *授業の振り替えをしたが、旅行後もなかなか落ち着かない。
 - *できるだけ道徳の時間を使わないようにする。
 - *担任によって、学級で道徳を事前、事後の指導に当てるなど、余裕をもった時間の確保が出来なかった。
 - *授業時数確保により、授業は使えないため、早めに取り組み必要有り。
 - *もう少し歴史・文化の事前学習の時間を確保したい。
- ・連合で実施の際事前事後の集合学習の実施。
- ・放課後の時間も含め、時間の確保と生徒指導のからみが難しかった。(5)
- ・大規模校のため物理的・時間的に困難。
- ・3ヶ月以上の長期計画をもとに、修正しながら実践してきたので、時数確保の上で、大きな課題はなかった。
- ・どの内容をどの扱いで・・・というのを来年度に残したい。
- ・総合的な時間の活用はまずいのでは。
- ・学年300人規模のため、調べ学習の機会が設定しづらい。
- ・学習内容の調査には家庭でのインターネット利用を活用し、校内での時間節約を図った。

生徒の活動と時数（４７）

- ・生徒の活動を増やしたいのだが、十分な時間の確保ができない。（１８）
 - *生徒１人１人の学習定着のための時数の確保。（２）
 - *個人テーマに基づく事前学習の時間の確保（２）
 - *事前学習を深めれば深めるほど時間が必要になるので、その辺を見極め、どう計画的に進めるかが課題である。
 - *より主体的な活動への取組みと充実した実践化の工夫。
 - *生徒が下調べにかかる時間をもっと増やしていきたい。１年時からの積み上げが重要であることを再認識した。
 - *時間に限りがあるので、生徒主導でどこまで、まかせるかが難しかった。
 - *班別行動を行うときの行程、交通手段と時刻の関係、各見学場所の基礎知識を調べるのに時間がかかった。
 - *学習内容の調べ学習にパソコンを使って調べさせたが時間が足りないという問題が課題となった。
 - *体験と結びつけた事前学習を計画的に行う必要がある。
 - *計画的に取り組んだが時間数が不足し放課後等を活用した。
- ・生徒主体の活動となるよう、実行委員会及び各係の活動を、更に充実していきたい。（２５）
 - *班長を中心に係の活動を積極的に進めさせることが課題。
 - *時数確保から短時間で班の計画を立てる必要がある。そのために、班長が中心となって計画を立てることになり、班員の考えが反映されない面がある。
 - *事前の調べ学習で、コース作りの時間の確保が難しい。（６）
 - *班別行動の計画を十分時間を取り、指導が入られる時間の確保が課題である。
 - *生徒の自主活動を育てるために、グループ活動や個人研究の時間が必要だが、授業との関係で十分確保できない。
 - *生活経験が班別行動を良いものにさせる。普段の学校生活において指導すべきだった。
 - *バス停や路線系統など細かい交通手段の計画がスムーズに出来なかった。
 - *班別コースの計画と実際の行程に大きなズレが生じる。（２）
 - *班別コース決定までの各班の現地理解の充実。
 - *体験を取り入れたかった。
 - *途中のチェックを細かくする。
 - *テーマが多様であったため、班編制が難しかった。
 - *班別学習に体験学習を取り入れる時、日程となかなか合わない。
 - *班別学習を２，３学年合同で編成したので、コースの決定に時間がかかった。上級生に頼る傾向が見られた。
 - *グループ編成を新学期になってから行うと決定までに時間がかかる。（２）
 - *生徒に班別行動計画を作らせるなど、主体的な活動にしていくには、時数がかかる。（２）
 - *ひとりひとりが見学場、コース等事前学習をしかり行うこと（他人任せでなく）
- ・事後学習では、まとめとしてプレゼンテーションをやらせてみてよかった。
- ・他の時間や活動と重複している生徒の援助。
- ・タクシー研修でなく、バス、電車等の利用での研修が良かったが、このためには時間の確保が重要となってくる。

実行委員会の時間（３２）

- ・一部の生徒（実行委員等）を活動させる放課後の時間のやりくりが、他の学校行事との関係で難しい。（２８）
 - *学校行事（１４）、運動部の大会（１）、定期テスト（１）、他の委員会（１）、部活動（３）、
- ・実行委員会での論議が十分に確保できず、教師主導の運営となってしまった。十分な時間的な余裕があれば３日間の活動内容も含めて生徒主体の取組みが望ましい。
- ・実行委員会の活動を放課後に行うことが多く、一部の生徒の負担が増えた。（３）

進度差（３２）

- ・学級間の進度差（８）
 - *計画的な進行と７クラスの共同歩調。
 - *学級での進度状況に大きな差ができた。（６）
 - *生徒の行動計画に、教員が効果的にアドバイスをしたクラスとそうでないクラスのばらつきがあった。
- ・班別活動準備の進度差（１４）
 - *班により、活動の速度が違い、その調整を放課後に行わなければならなかったこと。（１２）
 - *調査計画がてきぱきと進む班とそうでない班との差が大きく、指導に苦慮した。
 - *１日乗車券による班別行動の計画を立てる時、個人差が大きく、助言することが多かった。
- ・個人の進度差（１０）
 - *生徒個々のまとめを進める進度差の調整
 - *学習内容（意欲）に個人差が大きく表われた。（５）
 - *個人の作業が多く差が大きく、助言等を多くの職員で行う必要性あり。
 - *新聞作りのペースが生徒によって異なるので、宿題になってしまうこと。
 - *ノート作りは早い子と遅い子の差が激しく、時数を確保しても足りない生徒もいれば、余ってしまう生徒もいる。
 - *どうしても個人差が出てしまい、部活動とのからみで、放課後等、時間の確保が難しい。

時間の有効利用（９）

- ・計画的、意図的な時間の活用の仕方。
- ・学年として、一斉に取り組むことの出来る時間をどのように確保するか。（一斉学活の設定）
- ・時間の有効活用。（班活動を重視しているため、学年全体で同歩調をとるのが難しい）
- ・限られた時間でいかに内容を充実させるか。（３）
- ・集中的に取り組める時間の確保が必要である。（２）
- ・修学旅行の取り組みで時間がたりなくなり、他の教科に及んだ。

その他の問題点（１２）

- ・新年度になり間もない実施日のため、全ての会議を効率よく進めること。
- ・新学期の忙しい時期で、クラス替えもあり、スムーズな話し合いができず時間がかかった。（３）
- ・週２８時間の授業外での生徒の指導時間（放課後）が少なく（取れない状況）実質的には生徒活動を中心とした時間が取れず教師主導に進みがちになる。
- ・時間をオーバーすると他の諸活動に影響がある。
- ・学習内容やコースについては業者にモデルコースを作成してもらわざるをえない。
- ・工夫をしたものの、時間にルーズな面が出たり、連絡が遅れたりという課題も出た。今後の学校生活に生かしたい。
- ・旅行会社とのさらなる連携。（計画と情報収集の的確な同時進行）
- ・かけた時間、金額分の効果が出ているか、疑問が残る。
- ・事前、事後の指導のための資料の整理や、実行委員会を動かすために職員が多くの時間を費やすことになるが、そのほとんどが勤務時間内では不可能である。この実態をうまく改善している事例があれば参考にしたい。
- ・JRの座席を早くもらいたい。

事後指導、反省、まとめの時間（３４）

- ・事後指導（１６）
 - *時間の確保が難しい（８）理由；学期末（年度末）のため（２）、運動会（１）等
 - *事後指導が休日などの関係で、帰校後すぐにとれない。
 - *事後学習が遅れると反省もうやむやになるので早めにどう時数を確保するか
 - *事後学習では、班で取組む時間を多くしたが、修学旅行全体の様子を全体で振り返る集会が持てればよかった。
 - *部活の総体がすぐにあるので、事後指導にあまり時間がかけられなかった。
 - *事後は、進路指導が始まるため、時間確保が難しくなっている。
 - *6月半ばの修学旅行だったので、テスト、総合体育大会等の行事で、事後学習の時間が十分取れなかった。（２）
 - *事後学習で反省の作文 係反省会 全体反省の流れで3時間の時間確保
- ・反省、まとめの時間（１８）
 - *感動が薄れる頃に発表会を持つしかない日程の問題がある。
 - *反省まとめの時間の確保が十分でない。（５）
 - *まとめとして新聞作りをパソコンで行っているが、PC室の利用が重なり、調整のための日課変更に苦労する。
 - *3年1学期いっぱいかけて、まとめ学習を行う。
 - *班別学習のまとめ発表会を事後学習として行ったが、総合的な時間の学習では足りず学活を使い準備等を行った。
 - *修学旅行直後の係の反省をさせる集会を行ったが、時間確保が難しく、集会前15分ほどを充てて補った。
 - *学校内発表会（1、2年は校外学習について）までの時間確保が十分でなかった。（５）
 - *事後学習の内容（発表会、新聞作り）を精選すること。
 - *発表会の練習の時間がなかなか取れない。
 - *他学年、保護者に対しての報告会の実施。

（２）昼休み・放課後・その他の時間（５０）

- ・昼休みも使用しないと時間は確保できない。
- ・放課後（４８）
 - *部活動等で放課後使える時間が少ないので、生徒主体の活動が不十分になってしまうこと。（１７）
 - *修学旅行終了後すぐ総合体育大会があり、部活動との両立が難しく、事後学習の時間が確保できない。（２０）
 - *急に放課後の時間が使えなくなったり、行事等で日程の変更があって、予定通り進まなかった。
 - *10月過ぎからの準備のため（1月31日実施）、放課後遅くまで取り組めない。（下校時刻の関係）
 - *実行委員会開催など放課後の時間の確保が難。
 - *より細かい指導をしようとする放課後まで使わなければならない点。
 - *実行委員会を放課後に実施するしかなく、委員・指導者が部活動の時間を割かれてしまっている。（２）
 - *実行委員会は放課後に設定したが、行事等で持てないことが多かった。
 - *実行委員会の集まりを昼休み、放課後にもつことが多かったので、工夫が必要である。
 - *班別に見学場所を決め調査するので、各班の学習進度を調節するために放課後を活用せざるを得ない。
- ・実行委員がしおりをつくる時間が確保できないので、いつも個人にまかせて期日までに作るかたちで行った。

（３）直接時数確保と関係しない課題（２６０）

計画作り（３３）

- ・年間の行事計画をよく吟味して計画すべき。（６）
- ・活動内容等の計画、立案、取りまとめのための時間調整が大変であった。（２）
- ・年間指導計画作成時に、時間を確保する際、極力少ない時間で効果的な時間となるように検討すること。（２）
- ・計画通りにはなかなかいかない。・計画で予想できなかった学習のふくらみ。
- ・直前になって時間的に急ぐ状況があったので、より早め早めの計画が必要であると感じた。
- ・冬季のため、実行委員会を放課後長い時間持つことが難しいので、早めに計画を立て、機能させることが望ましい。
- ・修学旅行の実施日程が、列車の関係で自主的に決定できないため、3年生の新学期になってからの活動が、日程によっては時間的に厳しくなってしまうこともある。
- ・新学期草々なので、体験と見学のバランスを十分考えていく必要がある。
- ・学級活動と総合的な学習の時間のそれぞれの内容の明確な設定。
- ・総合の時間は有効に使えたが、クラス担任が総合の時間に他学年の授業があるなど、行う内容はだいぶ限られた。
- ・放課後の時間の確保も難しい状況で、効率的な準備と総合的な学習の時間への適切な位置づけ。
- ・1学期は修学旅行が終わるまで学活と総合の内容が限られてしまう。（２）

- ・必要な学級指導活動が後回しとなってしまった。
- ・多くの時間を要した。学習のあり方を含め検討すべき課題は多い。
- ・締め切り間に間に合わせるため、授業の入れ替えを行うことがあった。
- ・メリハリをつけた時間設定をしないと、生徒の集中力、モチベーションが続かない。
- ・職員の出張等で予めの計画が消化されないことがあった。分掌は最低2人が必要か。
- ・授業時間の確保が困難な中、どのような修学旅行の取り組みを行っていくか。
- ・体験学習の取り入れ方。
- ・京都班別研修の計画（調査）の充実。
- ・京都市内班別行動における時間的な計画について、パソコンやガイドブックだけでは計画を立てるのに難しかった。
- ・修学旅行の時期にイベント（例；万博等、花博等）が実施される時には、それを入れるような計画であってもよい。
- ・活動計画書（ルートマップ）作りに時間がかかり、観光地や名所の事前学習に時間をかけることができなかった。
- ・2年生の後半で事前学習を済ませておくと3年生でのルートマップ作りに有効と思われる。
- ・広島まで訪問させたい。（日程の工夫）

ねらいの達成（27）

- ・限られた時間の中でどのように深化させるかが課題である。（2）
- ・3日間の修学旅行のデザインの工夫をどうするか。生徒の手による修学旅行の実施。
- ・修学旅行も含め学校行事の意義や趣旨ねらいを明確にしていく必要を感じます。
- ・目的を達成できるように、全員参加の有意義な活動にする。
- ・目的意識を高める指導、生徒を生かす手立て。
- ・特色ある取組みと生徒の主体性の生かし方の工夫。
- ・学級、学年と大きな集団での活動の充実。
- ・見学地についての予備知識収集とモチベーションの高め方。
- ・京都や奈良の寺社についても深く下調べをしておくことで、更に充実した寺社見学になったと思う。
- ・生徒たちの訪問地に対する興味・関心の高め方の工夫。
- ・国際理解に欠かせぬ、日本の歴史や文化を学ぶため、修学旅行においても班ごとにテーマを決めさせ、そのテーマに迫り、追求していく班行動の計画を立てさせ実行させたい。
- ・日本の文化を学ぶ学習を他の領域にどのように広げていくかが課題である。
- ・修学旅行に対する目的や意識を高めるのが、クラスが変わってすぐなので、難しかった。
- ・生徒の事前学習の意欲をいかに高めさせるかが、課題。（2）
- ・十分、総合的な学習の時間を使って事前学習を行えたのが、それに見合うだけの成果の報告（発信）の方法が不十分である。時数というよりも修学旅行のまとめ自体に課題があると感じている。
- ・学習という意識を持たせることが重要だが、徹底するのが難しい。
- ・京都・奈良の全体像に迫る学習には至らない。
- ・表現力を向上させるためにも事後のまとめや発表の形式、仕方を工夫したい。
- ・細かく指導内容をチェックすればするほど逆に生徒の主体性を損なうことになる。
- ・実施時期が遅く、生徒の活動意欲を継続させることが難しかった。
- ・半年前からテーマに沿って取り組んだ。長期にわたって行うことで、生徒たちの興味関心が希薄になってしまう。
- ・内容の形骸化。
- ・事前・事後学習の内容の深め方。
- ・パソコンの利用が多かったが、説明など自分たちのわかりやすい言葉に置き換えて発表できるようにしたい。

取組み開始（13）

- ・前年度にも、かなりの事前準備をするための時間を確保すること。（7）
- ・2年次終盤（3学期）から見通しをもった調べ学習を行っていく必要がある。コース作成に追われ、見学地についての調べ学習を十分に行うことができなかった。
- ・修学旅行の実施時期と学期当初の指導の兼ね合い。（2）
- ・4月9日始業、5月15日出発という日程のなかで実施するには、全体計画を3年職員が良く承知し、計画的にそれぞれの準備を進めること。
- ・まだ遠い時期からスタートするので意欲を維持するのがむずかしい。
- ・今年度は学級編成があったため、実質的活動は3年次から開始したが、できれば2年次後半から取り組みたい。

指導組織について（28）

- ・年度をまたぐため、人事異動等で前年度から準備を始めると、支障をきたす可能性を否めない。（7）
- ・担任による指導が中心となるため、総合的な学習の時間に担任が入っていない場合や、出張などで不在の場合、同一歩調で進められなかった。（3）
- ・学年外の教科担当との連携が不足しがちであった。
（事後指導における感想文や新聞づくりは国語や美術の時間も充てることができる）
- ・学年の教師が他学年にも授業を持っているため、学年・学級につけないことがあった。（4）
- ・職員の分担。・先生方の負担が増えるばかりであった。・他教員との打ち合わせ時間の確保。・連絡事項の徹底。
- ・職員の手が足りないので、係ごとに活動する場面で生徒につけない。
- ・小規模校では担当・指導教員不足。・時間も人間ももっと必要。
- ・細かい点まで生徒に考えさせているが、限られた枠を示して効率的な指導をする必要がある。（2）
- ・課題設定の段階、追求の仕方に対する指導、支援。
- ・実施までの期間が短かったため、細かい所の確認や指導が不十分なところがあった。
- ・担任を中心として各クラスで指導していくこと。・担任が出張などで時数との調整が難しいことがある。

生徒の組織作り（13）

- ・実行委員会を中心とした主体的な活動。（2）
- ・実行委員会組織のあり方を工夫し、係会議の時間をとらないようにした。
- ・実行委員会のメンバーにかかる負担が大きい。（2）
- ・生徒の主体性をもっと発揮させていく。
- ・2・3年で学級編成が変わる場合の班作りは、学級という集団を越えての編成になるため、人間関係を越えての編成になるため人間関係が難しい。（2）
- ・班編成がクラス単位ではないため学級ごとの指導ではなく、学年全体での活動の時間を確保する必要がある。
- ・班編成時必ずしも同じテーマの生徒が集まるわけではない。
- ・班行動計画をいかに6～7人にわりふるか。
- ・学年250名を超える生徒数のため、全員が目的を持って活動させる指導が必要であると同時に組織作りが大変。
- ・修学旅行の取り組みだけでなく、様々な活動を並行してやらなければならないため、こちらが意図した活動が十二分に組織できなかった。

施設の活用（43）

- ・活用時間の工夫が必要。（34）
 - *学年全体が同一時間にとったので、資料作成、収集等コンピュータ室の利用が困難となった。
 - *大規模校のため、パソコン室の利用が物理的に困難であったことが今後の課題である。（9）
 - *パソコンの台数に限りがあるため、放課後に事前学習を実施。（4）
 - *発表時のパソコン利用が十分できない。
 - *インターネットをもっと活用できれば良かった。
 - *パソコンを使った資料作りは、教師主導で進みがちになる。
- ・全体集会を行うときに、体育との関係で体育館を確保できない。時間割編成に工夫が必要だ。（5）
- ・大規模校のため物理的・時間的に困難。
- ・場所、資料の関係から全員を同時に活動させることが難しい。
- ・8クラスの生徒が同じ時間帯に調べ学習できる施設・設備がないので、家庭学習が中心になってしまう。
- ・全体指導を行う際の場所の確保が難しかった。（他学年も、同一時間に総合的な学習の時間が組まれているため）

資料の収集（18）

- ・適切な資料の確保が難しい（11）
 - *課題解決学習をするための資料が十分になく、課題によっては苦労した。（2）
 - *調べ学習のための教材を数多く取り揃えておきたい。
 - *見学場所決定、班別行動計画作成のための資料収集を充実させたい。
 - *情報収集方法がガイドブックに頼りすぎていたので、別の方法も模索するべきだった。
 - *予察の役割、内容を整理しておく（必要な資料の見通しをもち、効果、効率的時間活用と内容充実を図る）（2）
 - *前年度の学年が使用した資料の引継ぎ。
 - *インターネットの情報と実際のズレ。
- ・情報収集能力の育成（4）
 - *班活動コース作りの資料集めの時間確保。 ・資料の活用と示唆、助言の工夫。 ・現地への電話取材。
- ・体験学習の内容や料金などが様々で、早めに準備しておくとうまい。（2）

資料作り（4）

- ・分かりやすい資料作りの工夫。
- ・新聞のレイアウトの仕方やどのような学習に取り組みばよいか。
- ・より学習を深めるための学習計画。
- ・できれば、毎時でなくとも全クラス同じ時間帯に調べ学習を行いたい。

総合学習のねらい（37）

- ・修学旅行に総合的な学習の時間を活用（11）
 - *学活の時間で取り組む目的と、総合の時間で取り組むねらいをはっきりさせる。
 - *総合学習のねらいに、いかに迫るか。（6）
 - *総合学習の目標を含め指導計画を立てる。
 - *総合の時間の有効活用。
 - *放課後に係会や実行委員会、コースを考えるとすることが多く、生徒への負担が大きくなるので、総合的な学習の時間をうまく運営できるとよいのではないかと。
 - *総合の時間（国際理解）との関係。
- ・消極的に活用（17）
 - *修学旅行は本来特別活動であるので、総合の時間を関連させるとき、関連の内容や方法を明確にする。（2）
 - *総合学習として行事を全て入れることは不可であるので、総合学習と行事との関連付けの工夫が必要。（2）
 - *総合の中で修学旅行関連の時数をどう位置づけていくかの判断が難しい。
 - *修学旅行のねらいを十分達成するためには、事前・事後の指導、活動時間が重要であるが、「総合的な学習の時間」を運用せざるをえないのが現状である。（2）
 - *総合的な学習の時間を使わなければ準備が間に合わない。（5）
 - *総合的な学習の時間が週3時間確保されているが、平行して他の課題が入ったりするので、継続して1つのテーマに取り組むことができない。
 - *総合的な学習の時間には他の内容もあり、また教科の時間の確保などとのかねあいもあり、ぎりぎりのところでや

っているのが現状である。

- *総合の学年テーマ「文化」で個人研究へ移るのが6月に入ってしまう11月の発表までの時間が少なくなってしまう
- *学活総合的な学習の時間が随分とられてしまう。
- *今年は総合を週1時間で活動しているので準備の時間が短かった。
- *総合的な学習の時間を充てているが、修学旅行実施時期が5月末であるため、時間が十分取れなかった。
- ・総合の時間の再検討(7)
- *総合的な時間を使うか学活を使うかがどう区別すればよいのかの判断が不明確(2)
- *総合の時間が活用できない。
- *総合の時間は本来の趣旨と違うので学校としての課題がある。
- *総合の学習がその間、テーマからはずれる。
- *総合的な学習の時間を使うことなく、準備・指導を行いたい。
- *「総合的な学習」で本来学ぶべき部分があるはずですが、そこが削除されてしまうことになる。
- ・総合的な学習の時間の全校的な取扱い(3年は時間必要だが...)
- ・総合的な学習の時間は、全学年共通の時間帯のため、行事が遠い学年には活動計画が立たない。

教科との関係(13)

- ・教科の学習と関連づけて、事前の調べ学習等の時間を確保できたらよいと思う。(7)
- *全教科で学習に取り組む計画づくり。
- *各教科の中で関連する内容をリストアップして、触れると良い。
- *取組み内容を精選し、各教科(社会科、美術科、国語科等)の学習に関連させ、年間指導計の中に組み入れる。
- *京都・奈良が訪問先のため、社会の歴史の授業ともリンクできればより効果的であろう。
- *歴史の学習との関連を深め、強くできないか。
- *国語、社会、理科、美術等の授業内容を工夫し、学習を深めるようにしたい。
- *事後のまとめの時間を生み出すことが難しいため、技術科の授業と連携してウェブページ作成作業に組み込んだ。
- ・実施日が比較的早かったため学活、総合的な学習の時間だけでは足りず、教科の時間利用を行わざるを得なかった。
- ・授業時数の確保。(5)
- *授業に対しての集中力が、とぎれないような取り組み。
- *授業振り替え等、他学年の協力が必要である。
- *各教科年間計画通りに授業を進めることが困難。

班別行動計画(5)

- ・奈良・京都の班行動計画づくりを、いかに効率よく進めていくか。
- ・班行動の限界とシルバーガイドの活用方法。
- ・SKYガイド協会、班別タクシー見学等の予約が早く埋まってしまい、生徒のみの見学となってしまう。
- ・体験学習内容の検討と充実。
- ・体験学習を実施する場合には、申し込み、調査等で時間を要するので、早めに対応していくことが大切である。

その他(時数の確保でないもの)(26)

- ・修学旅行のあり方の再検討。
- ・やればやるだけ効果があるのですが、修学旅行の学習ばかりやっているわけにもいきません。
- ・修学旅行で学んだことを深める工夫。
- ・限られた時間の中で、係り活動や、事前学習をどの程度まで行わせるのか、その教育的効果を考えた計画作りを見直す必要があると感じた。
- ・事前学習で、さらに意識を高めるための工夫が必要。
- ・事前の体験活動。
- ・今回、新しい試みとして「神戸震災学習」を入れたので取組みに苦労した。
- ・直前になって出てくる課題への対応。
- ・多人数のため、効率を如何によくするか。
- ・関プロ大会での発表に向け、いかにまとめるかが今後の課題と考えている。
- ・添乗員との細かな打合せが不十分。
- ・事前の下見ができないので行ってからの対応する場合がある。
- ・学年内の職員だけでは対応できないときがあった。
- ・臨時列車の使用によって、値段は安いけど時間の制約があり、弾力的ではなかった。
- ・マナー向上等も時間をかけて行う必要がある。
- ・継走列車での一般客とのトラブル等、指導上の課題が残った。
- ・朝が早すぎる。始発でも間に合わない職員がいた。
- ・出発時間が早いため朝食を新幹線内で取っている。
- ・看護師の費用が1人当たり800円強かかっている。
- ・旅行費用の軽減。
- ・費用が一般の旅行よりも高い。
- ・予察等、事前に経費がかかる。
- ・実施時期を梅雨にかからないようにする。
- ・同じ日に2時間の授業になったりするためやりにくい。
- ・毎年このアンケートを採る必要があるのでしょうか。事務を軽減する方向で見直していただけないでしょうか？